

第75回関東大学サッカーリーグ戦 駒澤2001の軌跡を振り返る

中大とドローという形でスタートを切った 2001 年関東大学サッカー1部リーグの駒澤。優勝を狙えるだけの戦力をそろえ駒大サッカー部史上初の快挙が期待されたが、その戦いは非常に苦しいものだった。「勝てる試合を自分達のミスでモノに出来ないことが多かった」と小林主将が語る今季の軌跡を振り返る。

開幕戦—中央大学戦 取りこぼした勝点「2」

→新人の中後雅希(左)、大瀬良直人(右)を先発させた開幕戦の相手は中央大学。悲願へ向けて負けられない大事な一戦だったが、セットプレーから先制される苦しい展開に。攻撃は連携不足を露呈し、津村のPKで辛うじて引き分けに持ち込んだ



5節—慶應大学戦 負けないが、勝てない

←2節の国士大戦での完勝以来、この試合で3試合連続の引き分け。苦しい戦いが続いたが、中田(写真)の台頭など明るい材料も



9節—中央大学戦 ミスから自滅で痛い初黒星



前期を無敗の2位で折り返した後、総理大臣で準優勝し期待の後期開幕を迎えたが、順大戦を引き分けると続く中大戦では今季初黒星。この試合で橋本(右写真)が負傷しその後の試合を欠場。チームは苦しい状況に追い込まれた

最終節—国士館大学戦

4位で終了、来季こそ…



最終節の前日、青学大が敗れたため目標であったインカレ出場が決定しモチベーションの低下が心配されたが、国士大の目前優勝を防ごうと奮闘。結局引き分け目前優勝阻止は出来なかったが、優勝チーム相手に1勝1分けと勝ち越し地力を見せた

駒大サッカー部今後の日程

- 全日本大学サッカー選手権
1回戦…V S 仙台大学(11月10日、12:00、江戸川区陸上競技場)
- 第81回天皇杯全日本サッカー選手権
1回戦…V S 大原学園 JaSRA(11月25日、13:00、松本平広域公園総合球技場)
※3回戦まで勝ち進むとジュビロ磐田(J1)と対戦します。

お知らせ

FORZA駒澤BOXを駒澤大学駒澤校舎内の食堂にあるアイスクリーム売り場に設置しました。毎週金曜日に50枚ほど置いておくので、配布時にもらうことが出来なかった方などご自由にお持ちください。

～大募集～

FORZA駒澤は毎週金曜日に大学内で配布中！ハガキでもなんでもよいので意見・感想など大募集！まだハガキ一通しか来てません…

13節—筑波大学戦 駒沢で消えた灯火

11節で青学大にまさかの敗戦を喫し、背水の陣で臨んだ筑波大戦。負ければ終わりという緊迫した状況の中、駒大イレブン最高のサッカーを披露。那須、増富のゴールで前半を2点のリードで折り返した。しかし後半になると同じく優勝へ望みをつなぐために負けられない筑波大が反撃を開始。一気に逆転を許し、一度は交代出場の金のゴールで同点に追いついたがロスタイムの失点で万事休す。「地元」駒沢競技場で悲願の灯火は完全に消えた



★駒澤大学 2001 関東大学 1 部リーグ 全試合結果★

節	スコア	相手	得点者(アシスト)
1	△1-1	中央	津村(PK)
2	○2-1	国士館	深井(巻)、深井(大瀬良)
3	△1-1	筑波	古川
4	△3-3	東京学芸	中田(那須)、古川(小林久)、尹
5	△0-0	慶應義塾	—
6	○6-1	青山学院	深井、木村、深井(中田)、森田(三上)、中田(深井)、中後
7	△2-2	順天堂	中田(中後)、深井(古川)
8	△1-1	順天堂	巻(木村)
9	●1-3	中央	中田(森田)
10	○2-0	慶應義塾	那須(森田)、森田
11	●0-3	青山学院	—
12	○5-1	東京学芸	深井(増富)、巻(森田)、森田(巻)、深井(森田)、三上
13	●3-4	筑波	那須(木村)、増富(津村)、金(古川)
14	△1-1	国士館	津村

※4勝3敗7分/28得点・22失点(1試合平均得点2・失点1.6)
得点内訳:7点…深井、4点…中田、3点…森田、2点…津村・古川・巻・那須、1点…木村、三上、金、増富、尹、中後
アシスト内訳:4アシスト…森田、2アシスト…木村・古川・巻、1アシスト…小林久・津村・三上・深井・増富・中田・那須・大瀬良・中後

前期、「負けないけれども勝てない」駒澤を苦しめたのはセットプレーからの失点であった。

開幕戦の中大戦、4節の東学大戦、7節の順大戦はその典型的な試合であり、いずれも試合を支配しながら引き分けに終わった。しかし選手にしてみればやはり「無敗」という事実は自信を持っているものであり、それが前期終了後に行われた総理大臣杯での準優勝という結果に繋がったのかもしれない。負傷者が出ても古川など交代で入った選手が活躍し、全ては順調に進んでいるかと思われた。だがそれは逆に「引き分けが多い」と言われても俺達は負けてないんだからいいじゃないか、という部分は少なからずあった」とGK桜井が言うように、選手たちから勝利に必要な「何か」を奪った。それは簡単に言う「必死さ」であったり、「飽くなき

向上心」といったものであったりしたのかもしれない。いずれにしても4年生が中心となり意図的に「このままでは優勝できない」という緊迫感をチーム全体に漂わせることも必要だったと思われる。たとえそうは思っていないとしても。

後期が開幕し順大に引き分け、中大に初黒星を喫したが、ライバル達も勝点を思うように伸ばせず、リーグは混戦模様。この状況も駒大にとっては災いしたのかもしれない。11節、青学大戦でまさかの敗戦を喫するとやっと選手同士でミーティングが開かれるなどチーム内にはいい意味での危機感が芽生えてきた。その後は5点を奪い大勝利した東学大戦、多くの選手が「印象深い」と語る筑波大戦と自分達の納得のいく試合を披露し、結局4位で終了。期待された悲願の達成はならなかったが学ぶことの多いリーグ戦であった。(熊崎)